

タイスイニュース

Taisui News

2019年4月 1日 第16号

秋田県のリサイクル認定製品のPR活動について

秋田県で、県のリサイクル認定製品のPR事業を進めています。

- ・主催：特定非営利活動法人 環境あきた県民フォーラム
(秋田県からリサイクル認定製品のPR事業の受託)
- ・時期：2018年12月～2019年2月
- ・主旨：広く県内の事業者や県民の皆様へリサイクル認定製品をPRする。
- ・具体的内容：イベントでの紹介やブースを設けて展示する等

展示は、秋田市・由利本荘市・大仙市等の7か所で開催されました。

その内2か所では、「私たちのくらしと地球環境問題について考えてみよう」と題して、セミナーも展示と共に開催されました。

当社のリサイクル塩ビ管は、秋田県横手市に本社のある(株)ホーネンを販売店として、地域の皆様にご愛顧いただいています。



展示会場の入口 (出典: 主催者ご提供)

一部製品は、農地のほ場暗渠止水資材である、「丸ゴム収納水閘」(株)ホーネン製の部材として使用してもらっています。

秋田県認定リサイクル製品の事業者も、(株)ホーネンで認定されています。



(株)ホーネンのブース

秋田市にぎわい交流館で、2月8日～2月12日に開催された展示状況を紹介します。

展示は、一般の方向けということで、見てくださる層もいろいろで、学生から主婦に至るまでです。

(株)ホーネンのブースに立ち寄られた皆さんは、塩ビが粉碎され造粒されていく過程の製品を見るのが初めての方も多く、興味深くご覧になっていました。

塩ビ製品のリサイクルの現状と問題点紹介

塩ビ管のリサイクルの現状や問題点を、塩ビ製品のリサイクルを推進している団体の研修会で紹介しました。

1. 日時 : 2019年2月26日(火)
2. 場所 : 茅場町大江戸ビル(東京都中央区日本橋茅場町)
3. 主催者 : 塩化ビニル環境対策協議会
(塩化ビニルの加工製品関連団体や原材料関連団体や関連する団体で構成。
また協賛企業は2018年12月現在で84社)
4. 参加者 : 協議会の会員・賛助会員および協賛企業の方、他関係者の方
5. テーマ :
 - ①海洋プラスチックに関する最近の動向
 - ②建材の再資源化に関わる動向と廃材活用の展望
 - ③リサイクルの現場からの現状や問題点 (大水産業より報告)

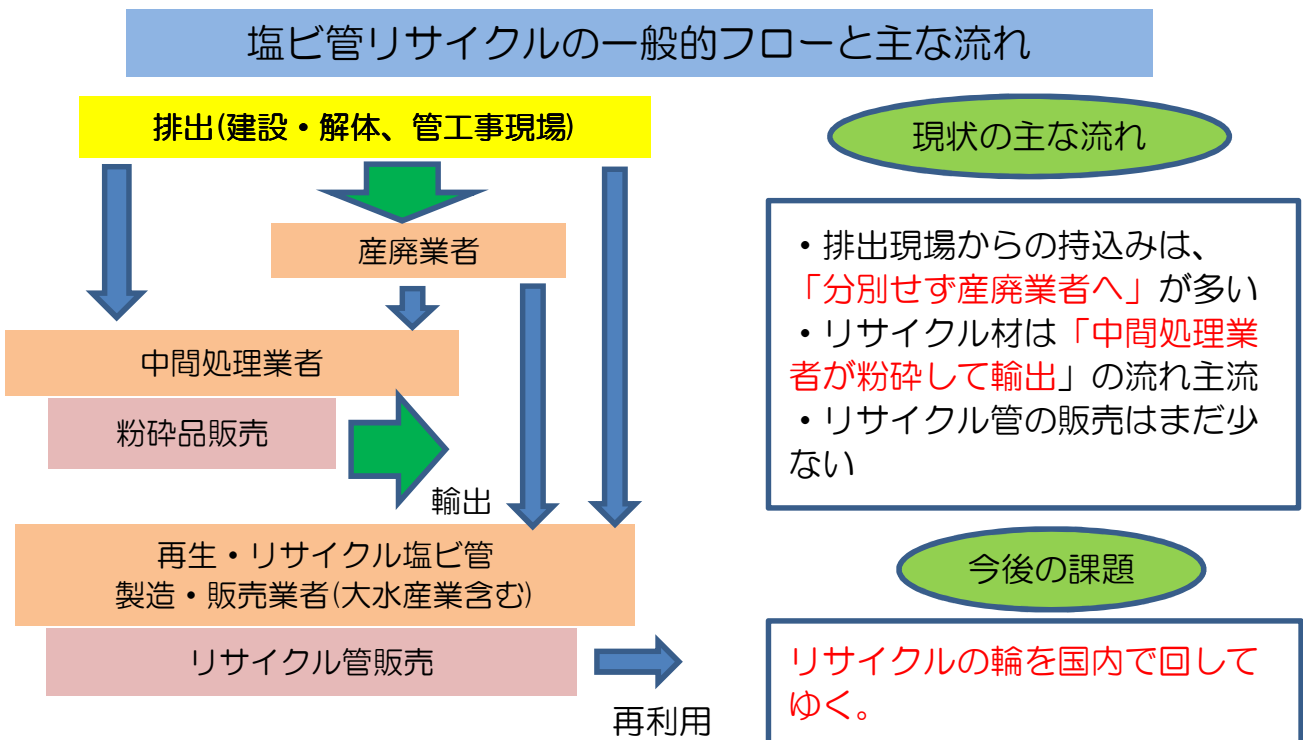
当日は、会場を埋め尽くす60名を超える参加者で満員でした。

三番目のテーマとして、当社から「塩ビ管のリサイクル現場の現状等」を説明させていただきました。

〈主な内容〉

- ①塩ビ管リサイクルの一般の流れ
- ②塩ビ管リサイクル現場
(リサイクル材受入れ⇒再生・リサイクル管製造⇒リサイクル管販売)
- ③塩ビクズ海外輸出状況(財務省統計)

今後の課題として、「リサイクルの輪を、国内で回してゆく必要がある」ことを皆さんにお伝えしました。



海洋プラスチックに関する最近の動向

2月26日の研修会で、塩ビ工業・環境協会から、海洋プラスチックに関する最近の動向について報告されましたので紹介(抜粋)します。

各国の状況

陸上から海洋に流出したプラスチックごみ発生量(2010年推計)の国別ランキングは、ある程度人口にも比例すると思われるが、右表のとおりです。

1~4位が、東・東南アジアです。

1位	中国	132~353万 t/年
2位	インドネシア	48~129万 t/年
3位	フィリピン	28~75万 t/年
4位	ベトナム	28~73万 t/年
5位	スリランカ	24~64万 t/年
	⋮	
20位	アメリカ	4~11万 t/年
	⋮	
30位	日本	2~6万 t/年

※推計量の最大・最小値を記載

出典:中環審・プラスチック資源循環戦略小委員 環境省資料

日本の状況 (環境省による海洋ごみの実態把握調査:漂流したペットボトルの製造国別割合)

- ・平成28年度に漂流ごみのモニタリング調査した全国10地点で、回収された漂流ペットボトルの製造国を推定。外国製のペットボトルは、10地点全てで見られます。
- ・奄美では、外国製の割合が8割以上を占めたほか、対馬、種子島、串本、五島では外国製が4~6割を占めます。
- ・一方、根室、函館、国東では外国製の割合が2割以下で、日本製が5~7割を占めます。

海洋プラスチックごみ問題の現状

1. 海岸での漂着ごみの事例



山形県酒田市飛島



長崎県対馬市

2. 漂着物の例



漁具



ポリタンク



洗剤容器

3. 想定される被害

- ・生態系を含めた海洋環境への影響
- ・船舶航行への障害
- ・観光・漁業への影響
- ・沿岸域居住環境への影響

⇒近年、海洋中のマイクロプラスチック(※)が生態系に及ぼす影響が懸念されている。

※サイズが5mm以下の微細なプラスチックごみ



海洋生物への影響



被災直後の海岸清掃



マイクロビーズ



微細なプラスチック片

出典:中環審・プラスチック資源循環戦略小委員 環境省資料

環境展・地球温暖化防止展の見学

2019NEW環境展・2019地球温暖化防止展を見学してきました。

会期 : 2019年3月12日(火)～
3月15日(金)

会場 : 東京ビッグサイト

来場者 : 約116千人 (主催者発表)

テーマ

〈環境展〉

環境ビジネスの展開

〈地球温暖化防止展〉

CO2削減と新エネ・省エネビジネスの推進

展示分野

展示分野は、多岐に亘っており、環境対策や温暖化防止の状況・新技術を見ることが出来ます。

〈分野〉

「再資源化・廃棄物処理」「解体・建設リサイクル」「水処理・水質浄化」「土壌・大気・作業環境改善」「バイオプラスチック・包装・**エコ製品**」

「地球温暖化防止」「新エネ・再エネ推進」「節電・省エネ対策」



正門前に設置されている開催案内板



展示会場 (出典: 主催者HP)

プラスチックのリサイクル

エコ製品として、プラスチックを再生しリサイクル材を販売している企業の出展もありました。

- ・100%国内リサイクルを目指している企業
- ・使用済の製品にラベル等が付着していても、手作業で剥がすのではなく、自動で除去する設備の企業 (粉碎からペレット生産まで一気に行う)
- ・主にオレフィン系(PE・PP等)の材料を再生して、ペレットにして販売している企業 (一部、塩ビ材料も取り扱っている。)

大水産業株式会社

本社・浦和工場 さいたま市岩槻区釣上新田318
TEL048-791-2887 FAX048-791-2870

八郷工場 茨城県石岡市加生野564-4
TEL0299-42-3124 FAX0299-42-3125